

阿武隈川の外来魚調査

福島県内水面水産試験場 調査部
平成17年事業報告

1 部門名 水産業-内水面(増養殖)-内水面漁業

分類コード 19-08-22650000

2 担当者 佐久間 徹

3 要旨

河川において外来魚、特にコクチバスが急増しており、河川における外来魚駆除技術を開発するため、阿武隈川の鎌田大橋周辺を調査定点とし、毎月1回、投網、刺し網による漁獲調査を実施した。また、越冬場所になると思われる大正橋下流ワンドについて、10月以降刺し網調査を実施した。

(1) 鎌田大橋周辺

コクチバスについて、投網での捕獲尾数は245尾で、7月にピークがみられたが11月以降は全く捕獲されなかった。刺し網では11月まで捕獲されたが、27尾と少ない尾数であった。また、コクチバスの全長組成は、投網では全長10cm未満の当歳魚が非常に多く、42.4cmまで捕獲された。刺し網では、14~34cmまで捕獲された。

他魚種については、投網ではオイカワ、ニゴイが多く、刺し網ではウグイ属が多かった。これらの魚種は自然繁殖により稚魚が多く発生しており、コクチバスに捕食されていた。オオクチバスは投網で2尾、ブルーギルは投網で5尾、刺し網で1尾のみであった。

(2) 大正橋下流ワンド

刺し網により10,12月はオオクチバス、コクチバスが捕獲され、11,1月はオオクチバス、ブルーギルが捕獲された。鎌田大橋周辺と異なりコクチバスの割合が低く、オオクチバス、ブルーギルが多く生息していた。このワンドは上流の河岸から13.0℃(12月)の湧水があり、上流ほど水温が高い環境で、オイカワが多数確認された。

4 その他の資料など

なし